

ユースでした。

以下は、セシールの後継者である前述の二人によるクリニック（6月分）の詳細な報告の一部です。

- a 6月9日：医薬品を注文した。注文先はSpecialist Medical Center and Pharmacy Inc.  
今月の注文合計は、2,051.25ペソです。
- b 今月特別の治療を要した患者は14人。ほとんどがサムラングの住民。
- c 入院はダミアン・トゥロン。斧で手を切ったため、ジェネラルサントス地区病院に運ばれ、500cc輸血。血液型はB。この費用 2,000ペソは、一時ジェネラルサントスの教会から借りたが、後でノノイ神父から（CMBから）支払われた。

#### <6月のクリニック報告>

作成：マルリル・サントスグルボン（看護婦）

- a 6月にクリニックを利用した患者（病名別）  
インフルエンザ（8）頭痛（9）咳（11）切り傷（8）熱（5）かぶれ・アレルギー（2）  
腸炎（寄生虫）（2）歯痛（3）死亡（0）出産（0）
- b 与えた薬 アスピリン 325g（66）その他 約20種（医薬品名省略）

報告作成：リディア・オディ（ヘルスワーカー）

#### ◇ サムラングでも、授業が始まりました！ — クリニックの軒下で、木陰に集まって —

「ビラーン通信」6号の号外でお知らせしましたように、フィリピンの新学年度開始に合わせてこの6月から、サムラングの子供たちも勉強出来るようになりました。

教師は、すでにご紹介した Mr. Aram ともう一人は Mr. Eddie。1年生41人、2年生18人で始まりました。彼らは大人のための識字教育も担当します。Mr. Aram の給与はCMBが、Mr. Pondo の給与の一部は、HANDSのセンター運営資金で賄っているそうです。給与が低いと、今は彼らの食費もセンターの資金から出していますが、すでに二人は畑で野菜を作り始めたのでいずれ自給出来るようになるとのこと。ビラーンの先生方はたいへん低い給与の補いとして学校の回りの畑を借りて、自給自足生活をしているようです。

チボリ国際里親の会の事業の一部に加えて申請したビラーン族のための教室8棟、スタッフ寮3棟、生徒寮1棟（合計約200万円）は残念ながら、郵政省ボランティア貯金の配分を受けられませんでした（6月20日ごろ通知あり）。このところ利子が極端に低く配分金の源資が昨年の3分の2に減少したこと、住民の自立にすぐ結びつく事業（例えば住民の授産施設）に重点を置いた選考基準に合わなかったこと等原因はいろいろ考えられますが、いずれにしても来年度はHANDS独自で申請をと考えています。

減額はあっても少しはこの配分金をいただけると判断して、5月末訪問時、雨もりのひどいトゥモロック小学校の1棟（3教室）の改築準備を本格的雨季開始前に進めてくださいと住民及びCMBに伝えてしまったので、配分金がダメとわかった時点で、急遽HANDS会員寄付金をトゥモロック校改築資金の一部にと送金する事にしました（約50万円）。この工事は7月上旬に始まり、車は雨季で増水した川を渡れないため、住民達は女性、子供含めて200人余りがふもとから二日ばかりで資材を運びあげたそうです。「その距離を想像してみてください。まさにそれは蟻の行列でした」と神父自身感動してファックス（7/12付）してきました。

新しく開校したサムラング分校の校舎は、チボリ国際里親の会が支援してくれる事になりました（約30万円）。完成したあかつきには、この校舎にも先日完成したばかりの簡易水道が引かれることでしょう。